

気持のよい季節がやってきました。空気も水も澄む秋、俳句の題材も沢山あります。健さん、うさおさんの初秋の句が届きました。まず健さんの句から拝見しましょう。

涼新た新刊に押す蔵書印

蔵書印という響きと新刊・・・季語が相まって清々しい初秋の感じが良く出ていますね。良い句だと思います。

その昔インド林檎のありにけり

そういえばインド林檎ってありましたね。甘い林檎で、今はいろいろな種類の林檎はありますが、インド林檎は見かけませんね。面白い句になっています。下五をありにけりとされているのがまた良いですね。

グランドをならず球児や晩夏光

これも季語の使い方が抜群、球児の姿がはっきりと見えて来ます。季語の力を借りて詠みたいものに焦点を合わせる。しっかりとした俳句の作り方です。

古書店の狭き階段秋暑し

この句もとても良いです。季語もびったり、特に説明しなくても古書店の様子が手に取るように見えてきます。

枯れ井戸の縁に欠けあり秋彼岸

一見何の関わりもない枯れ井戸の欠けと秋彼岸・・・この取り合わせが面白い。縁に欠けあり・・・が少し気になります。

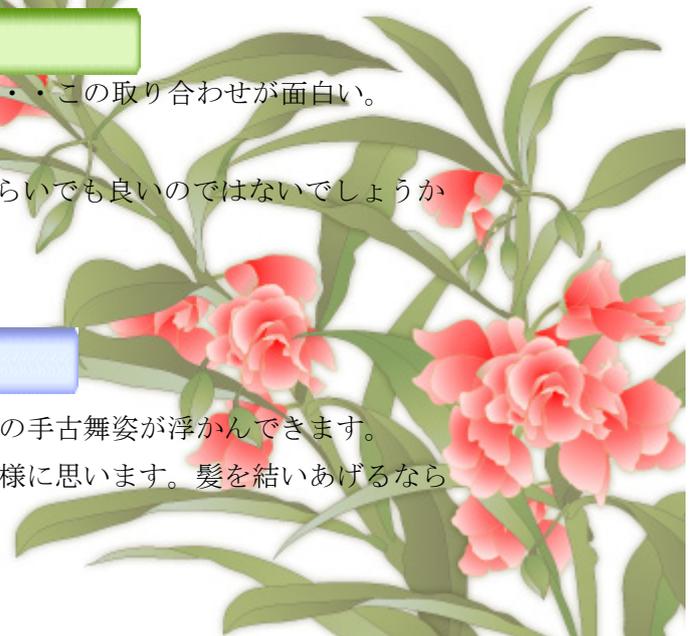
*枯れ井戸の古き傷跡秋彼岸 くらいでも良いのではないのでしょうか

続いてうさおさんの句を拝見しましょう。

結い上げて手古舞の鈴ちりっと鳴り

手古舞の鉄棒の先の鈴でしょうか、辰巳芸者の手古舞姿が浮かんできます。結い上げて・・・というのが少しわかりにくい様に思います。髪を結いあげるなら

*男髻結ひ手古舞の鈴ちりり



肩肌を脱ぎて手古舞艶冶なり

肌脱ぎの赤い襦袢が色っぽいですね、艶冶と言ってしまわないで読み手にわかってもらいましょう。

*肌脱ぎの手古舞紅き襦袢かな

枳杖を突いて神輿の音頭とり

そのままを詠んでいらっしゃって良いのですが、下五をかな、に変えるだけで句が大きくなりますよ。

*枳杖を突いて神輿の音頭かな

神輿待つ神酒所の人の侘びしけり

様子は良くわかります。手持無沙汰な様子の神酒所の人達。侘しいでも良いのですが、様子をはっきりと詠み込んでも良いと思います。

*神輿待つ神酒所は手持無沙汰なり

残業の夜に楽しげな盆踊り

残業していると、どこからか盆踊りの音楽が・・・残業、盆踊りは夜ってわかるので、夜には省けます。楽しそうな・・・も読み手に解ってもらいましょう。

*残業の胸も躍るや盆踊

*残業の胸躍らせて盆踊



健さんもうさおさんも本当にお上手になられましたね。健さんは何気ない景色を的確に俳句にされています。ぴったりの季語を探せば、十七文字で言い表せない奥の深さも読み手に感じとって貰えるという事もちゃんと解って、季語選びをしていらっしゃる様ですね。素晴らしいと思います。うさおさんは、ひとつの情景をいろいろな角度から切り取って詠んでいらっしゃいます。これはとても大切な事です。ひと文字を変えてみると句に広がりが出る事や、言い過ぎないで読み手に委ねるという事を考えられると、もっともっと良い句が出来ると思います。次回も楽しみにしております。

今朝はまた今日の顔なる芙蓉かな

孕み腹持て蟻螂の目の哀し

ゆうこ

